

特集 自ら学ぶ力を育てる

USE Read の仕組みと活用の仕方

池野 修 (愛媛大学)



現在のリーディング指導が抱える課題

現在の中学校英語授業では、リーディング指導に關しても様々な工夫が行われてはいるが、課題も少なくないように考えられる。例えば、(1) 英語を読む分量が少ない、読む英文が短い(例えば、高校入試の英文を読めるようになることを中学校3年間の到達目標と考えた場合には、教科書のレッスン本文では不十分と判断されるのではないだろうか)、(2) 読解 (reading comprehension) のトレーニングが体系的に行われていない、(3) 本文を日本語に直す、質問に答えるなどの他に活動のバリエーションが乏しく、リーディングの授業は、しばしば「動きのない」「答え合わせの」授業になってしまう、などはそのいくつかである。24NCでは、これらの問題の解決を目指して、新しいタイプのリーディング教材の開発に取り組んできた。その成果の核となるのが、各レッスンのUSE Readである。

USE Read の特徴

英語教科書の「本文」には、(1) 新しい文法・語彙の導入(および既出の言語形式の強化)、(2) リーディング力(読解能力)を高めるためのトレーニング(現実社会での読み real-world reading tasks を模した活動を含む)、(3) 思考力・感性の涵養(=知的・精神的成長にとって意味のあるメッセージ内容を読み、それについて考えたり、「心」を育てたりする)などの役割が求められている。これらのうち、USE Readは「読解能力の育成」と「思考力・感性の涵養」を中心的なねらいとするセクションである。

USE Readは、基本は見開き2ページで、これを2授業単位時間でこなす想定で作成されている。

従来の教科書本文やリーディング素材と比べて、USE Readには次のような特徴がある。まず第1に、Readの英文は読みのトレーニングに特化した素材文であるという点である。そのレッスンで扱う文型・文法はRead以前に導入し、すでにその練習活動も行っているため、Readでは「読む力」の育成に集中することができる。第2に、従来の教科書本文に比べてReadでは意図的にかなり長めの英文を提示している。それぞれの学年の到達目標に合わせて、1年の最後で140語、2年で190語程度、3年では260~280語程度の英文が用いられており、これは例えば高校入試問題のレベルにもより対応した英文となっている。第3に、リーディング教材とはいえ、単に英文を提示するだけではなく、教科書中に多様な読解活動を配しており、これらをこなすことを通して、重層的に英文の理解を深め、読解力を育成することができるような仕組みになっている。

以下、USE Readの構成を見ながら、様々なセクションの役割やその活用方法を確認してみよう。

USE Read の構成とその活用方法

第1ページ最初にある日本語の導入文は、(A)これから読む英文の場面説明を行う、(B)読みのねらい(=何のために次の英文を読むのか)を設定するという役割を担っている。なお、この導入文で示したねらいは、後述のPost-Reading活動とリンクする。一例をあげると、BOOK 2のレッスン3(For Our Future)では、導入文は「会議が開かれています。パンフレットには、提案者の発表の要旨が掲載されています。あなたはどの発表に興味がありますか。」となっており、3つの発表要旨が英文として提

示される。本文の後に配されている Post-Reading 活動では、「3人の発表の中から聞きたいものを1つ選ぶとすれば、どれにしますか。それはなぜですか。」について発表するという流れである。このように、従来のリーディングに比べて、「何のためにその英文を読むのか」(上述の例では、どの発表を聞か決めるために発表要旨を読む)、「その英文を読んだときに自然に行われる活動とはどのようなものか」を意識して英文および活動を作成している。

導入文に続く **Pre-Reading** は、英文を読む心的状態を整えるために、背景知識を活性化させたり、題材への興味づけを行ったりする役割を持つ部分である。対象テーマについて知っていることをペアやグループで話し合ったり、写真やイラスト等から英文内容を想像してみたりする。教科書レイアウトとしては、この下に本文となる英文が続く。

本文のさらに下に配置されている **In-Reading** は英文を読みながら行う活動であり、(A) 英文の概要を捉えるための活動 (e.g. 本文で出て来た順番にキーワードを並べ替える活動)、(B) 詳細な理解を確認する活動 (英問英答)、(C) より深い読みを促すための活動 (e.g. 読み取った情報を表にまとめる活動、要約文を完成させる活動) の3つの部分から構成される。(B) では、指導要領における「物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること」を行うための問いを提示している。また質問は英語であるが、答えの内容を含む段落の番号がヒント情報として与えてあり、回答作業を支援する工夫も加えている。このように、次第にレベルアップする一連の課題に取り組みながら、英文を重層的に読み、徐々に理解を確かなものにしていけるように In- Reading はデザインされている。

それに続く **Post-Reading** は文字通り「読後」の発展的活動であり、本文の英文の意味を理解した上で、(A) 読みと他の技能(話す・聞く・書く)を統合する、特に「理解」から「表現」への流れを作る活動、(B) 導入文で設定した読みのねらいに合わせた活動(つまり、その Post-Reading 活動を行うために英文を読んだという扱いになる)などから成っている。また、PISA 型読解力の「情報の評価・活用」を意識した活動も一部入れており、本文に求められる「思

考力・感性の涵養」を具現化する部分でもある。

最後に、**Try** は、読み取った内容について自分と関連づけて考えてみる補助的活動であり、適宜日本語で行ってもよい扱いとしている。

これらのメインの要素に加えて、本文の横には、本文題材内容の付加的情報を示した **Tips**、本文中の指示代名詞の示す内容を確認させたり、そのレッスンで習う文法を含んだ文を探し出させたりするための **Check** などが配置されている。

このように、USE Read は(従来より)長めの英文を素材に、多彩な活動を活用しながら「英文の読み方」の指導を行い、自立した読み手を育てられるよう工夫されている。

USE Read の題材と補助教材

24NC では、これまで以上に様々なテキストタイプ、多様な題材を扱っている。英語のリズムを楽しみながら読む Alice and Humpty Dumpty, 姉妹校の生徒からのメール文 School Life in the USA, エアーズロック登山に関する賛否を扱った新聞コラム Uluru, 英語落語の海外公演をしているきみ江さんへのインタビュー Rakugo Goes Overseas, 世界の興味深い家を紹介する図鑑 Houses and Lives, 学んできた「英語」についての寄せ書き English for Me などなどである。

また、現在、USE Read の補助教材(別冊)として『ワークシート集』と『リーディング・アイディア集』を作成中である。前者は、授業中に用いることを想定した Read 用ワークシートであり、スロー・ラーナーのための活動や応用・発展活動、追加の英問なども含むものである。Read をスムーズに教えられるようにするためのサポート資料となる。後者は、教科書に準拠した新たな(発展的な)教材集であり、レッスン毎に(a)その課の文法を強化するための英文と、(b)テーマ内容をさらに深めるための英文を準備し、それぞれに関連の活動をつけている。授業中に補助的に用いることもできるし、定期考査などで英文のみを活用することも可能である。

USE Read とその補助資料の活用により、充実したリーディング指導が行われることを期待したい。